

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2019年5月号掲載

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



気温も上がり、いよいよアウトドアシーズンの幕開けです。競馬では、コースがグラスかダートかによって馬の得意不得意が分かると聞きます。馬術もこの時期から、屋外のグラスアリーナと呼ばれる芝馬場での試合も多くなります。

ヨーロッパでは1つの試合で昨日は砂馬場、今日は芝馬場と毎日使用する馬場が変わることはよくある話ですが、こうした芝馬場や総合のクロスカントリー走行時、少し特殊な準備が必要です。

馬が芝の上で滑ってしまわないように、「クランボン」と呼ばれる、人間でいうスパイクを馬の蹄鉄に装着するのです。クランボンにはたくさんの種類があって、芝のコンディションや障害の高さによって、選ぶクランボンは毎回異なります。

1本の脚につき2つを、馬の脚を自分の両脚に挟んで固定し、3種の道具を駆使してかがんで装着する力作業なので、終えた後には腰が痛くなります。夏場など、試合前から滝のような汗が吹き出しますが(笑)、安全な走行をするため、騎乗前のこうした準備も集中して取り組みます。



馬具屋にて販売中の豊富なクランボン(これもほんの一部、使う道具も装着済みの蹄です！)(本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada

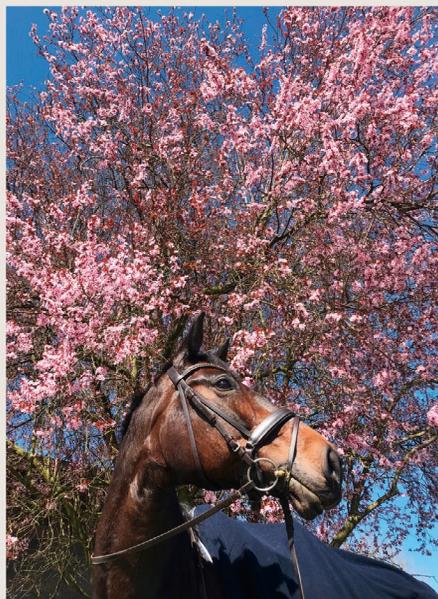


日本よりも1カ月遅れでドイツにも春がやってきました。こちらは河津桜のような濃いピンク色の桜が多く、とても華やかです。

春といえば繁殖のシーズン。牝馬は春先から秋口にかけて、定期的にフケ(発情を催すこと)が来ます。私の愛馬ブリタニアは牝馬で、誰に似たのか、とても気が強くて頑固なタイプです。フケが来てもいつも通り、という馬もいますが、ブリタニアは普段よりもコントロールが難しくなります。

そんなときは、「これでもか！」というぐらい時間をかけて準備運動を行い、いかに乗り手に集中させるかが勝負。頑固なブリタニアが納得してくれるまでしっかり話し合います。いつもうまくいくわけではありませんが、納得してくれると、いつも以上にパワフルに動いてくれ、いいトレーニングができます。お互いが幸せな状態でトレーニングできるように、これからも頑張ります！

馬場の横に立つ大きな桜の木。満開になったので愛馬をモデルに記念撮影！ブリタニアも「私を撮って！」と言わんばかりの表情です(笑)(本人提供)



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全国日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全国日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。